

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	関市家庭教育支援チーム (呼称: 宝 Seki(ほうせき))
②活動拠点	関市わかさ・プラザ学習情報館 ・関市立保育園・小中学校
③活動範囲	関市内全域
④組織体制	14 人 名称「家庭教育サポーター」 ・主任児童委員 6人(内元教員2人、元保育士3人) ・家庭教育サポーター 7人 ・家庭教育専門員(元教員)
⑤活動開始年度	令和3年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 関市市民協働部生涯学習課 (TEL)0575-23-7777 (E-mail) gakushu@city.seki.lg.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) ☐自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐ その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☐ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	【具体的な活動内容】 現代の子育ては、これまでの経験値だけでは切り抜けられない様々な問題が生じているのが現状である。今こそ、保護者自身の子育て・自分育てのための学びと、地域も一体となった家庭の教育力向上の取組が必要であると考え、次の取組を行っている。 ①関市乳幼児期家庭教育学級(いちご学級) ・6ヶ月～3歳未満児とその保護者を対象に開催。 - 学級数: 春期2学級、秋期 1 学級。1学級20組程度。 - 開催回数: 春期9回、秋期6回 ※年間を通じて同じ仲間と活動。 - 講座内容: 開・閉級式、バランスボール、ママ・トーク、子育て講話等 ・保健センターが主催する「中学校いのちの授業」に学級生が参加し、出産時の様子を中学生に伝えたり、乳幼児と中学生が触れ合ったりしている。 ・サポーターの中には、いちご学級卒業生もあり、自身の経験を活かし保護者に寄り添った活動を心掛けている。 ②園・小中学校における家庭教育学級の運営支援 ア) 出前家庭教育学級サロン ・保育園や小中学校で開催される「家庭教育学級サロン型」の運営のサポート。コロナ禍以降、保護者や地域のつながりの希薄化が懸念されていること、PTA 役員や学校の負担を軽減し、持続可能な家庭教育学級を目指す必要があることから始めた取組。 〈サロン型の例〉講演会後、少人数グループに分かれる⇒アイスブレイキング⇒感想や意見交流⇒サポーターがまとめ、学校・保護者役員の話 ③アウトリーチ型支援: 子育て相談【縁 Seki】 - 困り感をもつ保護者への個別相談 ※必要に応じ学校、関係機関へ繋ぐ ・保育園、小中学校の参観日や保護者行事に参加するついでにほっと一息つける場を提供。サポーターが園や学校に出かけて開催している。 ・開催にあたっては、園や学校の理解の下、日程調整や会場の提供、保護者案内等で連携している。
④活動の成果 (活動実績がある場合)	・家庭教育支援チームのメンバーは、地域の元教員や保育士、主任児童委員等である。子育て経験者でもあり、保護者にとって身近で頼りになる存在である。家庭教育学級の運営支援やアウトリーチ型子育て相談により、市内の乳幼児期から自立期(中学校)までの子どもをもつ保護者に対し、切れ目のない支援が行えるようになってきている。特にアウトリーチ型子育て相談は、学校行事等に併せ学校の一室に地域の支援者による相談の場が開設されていることで、不安や悩みを抱える保護者の孤立を防ぐ一助となっている。【R6年度アウトリーチ型子育て相談: 保育園 1 園、小学校 3 校、中学校 1 校で実施】

	・乳幼児期家庭教育学級の参加者の満足度は、大変高く、リピーターも多い。「いちご学級はメニューが豊富で、親子で色々な体験ができるところが良い。」「引っ越してきて友達ができるか不安だったが、ママ友ができて良かった。」「サポーターの優しい声掛けや笑顔に癒された。また参加したい。」等の感想が寄せられている。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☒ 文部科学省補助事業(事業名:学校・家庭・地域連携協力推進事業) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☐ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☐ その他の支援により活動を実施 ()